

病理検査学実習

責任者：岸野 沙也花

学年・学期：第2学年・前期／後期

単位数：2単位(90時間)

◆一般目標(GIO)

病理検査学と平行し、病理検査室で日常行われている主な検査ができるように、知識・技術を修得することを目的とする。

◆到達目標(SBOs)

1. 組織学的検査の手順を理解する事ができる。
2. 切り出しの目的、要点を踏まえた上で、準備する事ができる。
3. 臓器を肉眼的に判別する事ができる。
4. 脱水・脱アルコール・パラフィン浸透をする事ができる。
5. 包埋の目的、包埋剤の種類、用途を理解した上で、包埋の準備をする事ができる。
6. 薄切の目的、ミクロトームの種類を踏まえた上で、薄切に必要な物を準備する事ができる。
7. パラフィンブロック薄切において滑走式ミクロトームのメンテナンスや片付けを適切にする事ができる。
8. 薄切時の失敗原因とその対策について挙げる事ができる。
9. スライドガラスに正しい向きで組織を拾い、切片を伸展させることができる。
10. 各染色法において、原理、手順を理解し、染色液を作製する事ができる。
11. 各種染色を行うことができる。
12. 検体の大きさに適したカバーガラスを選び、適量の封入剤を用いて封入する事ができる。
13. 標本を鏡検し、正しく染色・封入されているか判断する事ができる。
14. 標本を鏡検し、臓器名と染色法を判断する事ができる。
15. 細胞学的検査の手順を理解する事ができる。
16. パパニコフ染色の原理、手順、試薬の組成、染色態度を述べる事ができる。
17. 喀痰・尿についての検体処理ができる。
18. パパニコフ染色を実施する事ができる。
19. 細胞診標本を鏡検し、正しく染色・封入されているか判断する事ができる。
20. 細胞診標本をスクリーニングする事ができる。
21. 細胞診標本における、各細胞の種類を判別できる。
22. 良性と悪性の区別ができ、代表的な疾患を判断することができる。
23. 各項目ともきれいに後片付けができる。

◆学習方法

教科書を中心にスライドや顕微鏡を用いて実習を行なう。

◆評価方法

定期試験の他に、実技試験やレポート、実習態度による総合評価。

◆教科書

臨床検査学講座 病理学／病理検査学 松原 修 他著 医歯薬出版(株)
月刊メディカルテクノロジー別冊 染色法のすべて 赤尾信吉 他筆 医歯薬出版(株)
ひとの組織学カラーアトラス 梶ヶ谷宏 他著 メディカルサイエンス社

◆参考書

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	病理組織学的検査 (パラフィン標本作製)	切り出し	岸野
2			
3	〃	包埋	〃
4			
5	〃	薄切①	〃
6			
7	〃	薄切②	〃
8			
9	〃	薄切③	〃
10			
11	一般染色	HE染色	〃
12			
13	特殊染色 多糖類の染色	PAS染色、Al-B染色、 Al-PAS重染色	〃
14			
15	〃	鏡検	〃
16			
17	結合組織の染色	VG染色、EVG染色、 マッソントリクローム染色	〃
18			
19	〃	鏡検	〃
20			
21	〃	鍍銀染色、PAM染色	〃
22			
23	〃	鏡検	〃
24			
25	組織内病原体の染色	チールネルゼン染色、グロコット染色	〃
26			
27	〃	鏡検	〃
28			
29	神経組織の染色	クリューバーバレラ染色、ボディアン染色	〃
30			
31	〃	鏡検	〃
32			
33	脂肪染色	オイル赤染色 鏡検	〃
34			
35	細胞学的検査 細胞診標本作製	尿・喀痰の検体処理 パパニコロウ染色	〃
36			
37	婦人科細胞診	良性(陰性)	〃
38			
39	〃	疑陽性・悪性(陽性)	〃
40			
41	呼吸器細胞診	良性・悪性	〃
42			
43	その他の細胞診	泌尿器・体腔液・乳腺・リンパ節	〃
44			
45	実技試験 ペーパー試験		〃
46			